２年生　講義一覧

浄土学概論Ⅱ　（月曜日　２講時）　伊　藤　茂　樹

授業のテーマ

仏教信仰のなかで浄土教がどのような特色を抱いたのかを知り,その教義を学びます。

授業の概要

インド、中国、日本。法然上人とその周辺の浄土教思想を学ぶ。

授業の目的・ねらい

浄土教の概要を理解します。浄土教はインド、中国、日本に伝わります。三国に広がる浄土教の概要を理解します。浄土教の概要を理解する中で、法然浄土教の特色を理解することを目的とします。

毎回の授業テーマ・内容

・浄土教の基礎　凡入報土　所求、所帰、去行

・浄土教（インド・中国・日本）の概略

・浄土教の師資相承

・末法思想

・浄土教における教相判釈

・観察と称名

・誓願

・菩提心と三心

・浄土教の人間観

到達目標

浄土教の基礎的な用語を理解する。称名念仏、観察念仏、本願、信行。インド中国日本に伝わる浄土教の概要を徹底的に理解することを目標とします。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

教科書を読んでください。講義の後は、ノートを整理してください。

成績評価の基準

定期試験（教室）　80%

その他　20%　受講態度　等

テキストについて

『浄土学概論』　坪井俊映　（佛教大学通信教育部）　2,365円

三経概説Ⅱ　（月曜日　３講時）　曽　和　義　宏

授業のテーマ

『観無量寿経』、『阿弥陀経』概説

授業の概要

『観無量寿経』、『阿弥陀経』の講読と解説

授業の目的・ねらい

「浄土三部経」のうちの、『観無量寿経』と『阿弥陀経』の内容を理解し、その教えがどのようにして善導大師、法然上人の教えへと展開していったのかについて理解する。

毎回の授業テーマ・内容

１．『観無量寿経』概説

２．『観無量寿経』研究史と善導大師・法然上人の解釈

３．『観無量寿経』講読

４．『阿弥陀経』概説

５．『阿弥陀経』研究史と善導大師・法然上人の解釈

６．『阿弥陀経』講読

到達目標

『観無量寿経』『阿弥陀経』の概略、および善導大師・法然上人の解釈について説明できる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

・テキストを一読しておく。

・ノートを整理し、浄土学概論、選択集、宗祖伝等の講義で習った内容と照らし合わせて理解するよう努める。

受講に当たっての留意事項

・ノートをしっかり取ること

・随自、質問をする等、積極的な関心をもって授業に臨むこと。

成績評価の基準

定期試験（教室）　80%

授業内発表　20%

テキストについて

『浄土宗聖典』第1巻　浄土宗聖典刊行委員会　（浄土宗）　7,200円

参考文献について

『現代語訳　浄土三部経』　浄土宗総合研究所　（浄土宗）　1,540円

『浄土三部経概説』　坪井俊映　（法蔵館）　15,730円

伝道学Ⅱ　（月曜日 ４講時）　日下部　謙　旨

授業の概要

伝道の基本と実践。

授業の目的・ねらい

伝道の基本を復習、確認しつつ、実践（作法、実演発表）を通して、伝道者（教師）のあるべき姿を考え、伝道の力をつける。

毎回の授業テーマ・内容

・御忌

・伝道作法　実践

・法話の構成

・テスト

・法話の構成復習、具体例

・法話の実演発表

・質疑応答

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

15分間程の法話実演発表。

成績評価の基準

定期試験（教室）	40％
授業内発表	40％
その他	20％（授業出席10％　受講態度10％）

テキストについて

『伝道』　恵谷隆戒　（浄土宗）　275円

参考文献

『法然上人のお言葉ー元祖大師御法語ー』　（知恩院布教師会）　500円

仏教音楽　（月曜日 ５講時）　小　川　隆　昭

授業のテーマ

仏教聖歌を学ぶ

授業の概要

現代社会に対応する仏教音楽

授業の目的・ねらい

日本の音楽の発祥は声明であるとされている。その発祥から日本音楽が徐々に発展し、その影響に依って日本古来の音楽と仏教伝来の声明とが独自の文化を生み出し、現在も伝統音楽として特別に変わることなく伝承されている。西洋音楽の発祥も同じく宗教儀式との関連から派生している。東西両音楽の接点から、現代社会に対応した仏教音楽はどうあるべきかを考え授業を進めていきたい。

毎回の授業テーマ・内容

・仏教聖歌

・宗教曲

・声明

・音楽法要連頌

・新しい音楽法要

到達目標

歌えるようになること。

授業時間外の学習(予習・復習)についての具体的な指示

音程、リズム等必ず復習しておくこと。

成績評価の基準

定期試験（教室）　80%　歌唱テスト

授業内課題　20%　声明を五線譜に置き換える

テキストについて

テキストを購入。コピーを配付。

『仏教聖歌』佛教大学編

『浄土宗の「新しい音楽法要」』小川隆宏

書道　（火曜日 1・2講時）　金　田　充　康

授業のテーマ

書道の基礎的な用具（筆・墨・硯・紙）の知識と使用法、技術の習得。

中国、日本の書道史及び書道文化の広範な理解。

授業の概要

書道史、鑑賞法に精通する「書学」と、書道の技法と表現を追求する「書作」、そこから派生する「書道文化」を並行して学び、「書」に対する広い視野を養成する。鑑賞を通じて筆者自身の人間性だけでなく時代、社会、風土、文化などを探るとともに、美を支える技法を探っていく。

授業の目的・ねらい

書道と書道文化、芸術性に興味感心をもたせ、創造力を養う。

毎回の授業テーマ・内容

・書学

中国書道史

日本書道史

・書作

古典の鑑賞と臨書

楷 書 法　孔子廟堂碑　九成宮醴泉銘　雁塔聖教序

行草書法　十七帖　蘭亭叙　集字聖教序　風信帖

篆隷書法　孔宙碑　曹全碑

仮名書法　粘葉本和漢朗詠集

写経

毎日の写経(浄土三部経)

作品制作

浄土宗芸術祭、大学祭への出品

実用書法

寺院ポスター、塔婆

篆刻

自用印の制作

・書道文化

書跡鑑賞研究

文房四宝（筆・墨・硯・紙）の基本的使用法

表装研究

古筆学

到達目標

書道の基礎的な用具（筆・墨・硯・紙）の知識と使用法、技術の習得。

中国、日本の書道史及び書道文化の広範な理解。

浄土三部経全文書写。

掛け軸作品制作。

作品集製作。

篆刻作品集制作。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示示

毎日の写経、清書作品の提出。用具用材の整備。

成績評価の基準

授業内課題　　70%　課題は欠席しても提出すること

その他　　30%（授業出席　10%　授業態度　20%）

テキストについて

『書の古典と理論』　全国大学書道学会 編　（光村図書出版）　2,200円

悉曇　（火曜日 ４講時）　花 園 善 信

授業のテーマ

梵字悉曇

授業の概要

梵字悉曇文字の歴史。

梵字悉曇文字の毛筆による実習。

授業の目的・ねらい

悉曇梵字の基本と切り継ぎ点画。

本宗で使用する梵字悉曇文字の実習。

毎回の授業のテーマ・内容

字母５１字、板塔婆、角塔婆、十三仏、弥陀三尊、釈迦三尊、お名号、四天王などの毛筆による書写。

到達目標

梵字悉曇文字の理解と毛筆による書写の修得。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

平生のお稽古を心がける。

成績評価の基準

定期試験（教室）　20%

定期試験（課題）　80%

テキストについて

『梵字悉曇伝習帳』　服部良譽　（佛教大学宗教教育センター）　1,000円

仏教史概説Ⅱ　（火曜日　５講時）　坪　井　　剛

授業のテーマ

古代から近世までの仏教史を学ぶ

授業の概要

古代から近世に至るまでの日本における仏教史に係わる史料を、様々な角度から分析することから、各時代における仏教の位置付けを考察する。

授業の目的・ねらい

・日本仏教について、歴史的な観点から把握できるようになる。

・基礎的な歴史史料を解釈できるようになる。

毎回の授業テーマ・内容

第一回　日本への仏教伝来

第二回　『日本書紀』仏教伝来記事の検討

第三回　飛鳥時代①―三宝興隆の詔

第四回　飛鳥時代②―大化改新と仏教

第五回　奈良時代①―僧尼令の規定

第六回　奈良時代②―僧侶の山林修行

第七回　平安時代①―最澄の天台宗と空海の真言宗

第八回　平安時代②―八宗体制の確立

第九回　平安時代③―古代仏教秩序の崩壊と浄土教の盛行

第十回　鎌倉時代①―中世仏教に関する捉え方

第十一回　鎌倉時代②―顕密仏教と国家

第十二回　鎌倉時代③―浄土宗と法難事件

第十三回　室町時代①―禅宗の盛行

第十四回　室町時代②―日蓮宗の京都進出

第十五回　戦国時代　―一向一揆の形成と展開

第十六回　織豊期　―新儀八宗の成立

第十七回　江戸時代　―本末制度と寺請制度

到達目標

・各時代の仏教の特徴について、説明できるようになる。

・現代の仏教が歴史的な所産であることを理解できるようになる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

・毎回配布する授業資料を通読し、授業内容について確認しておくこと。

成績評価の基準

定期試験（教室）	60%	授業内容に沿った筆記試験を行い、到達度を評価する。
授業内課題	40%	毎回の授業内容を十分理解できているか、コミュニケーションカード等で総合的に評価する。

参考文献について

『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』　末木文美士　（新潮社）

『日本仏教史　古代』　速水侑　（吉川弘文館）

『日本仏教史　中世』　大隅和雄・中尾堯編　（吉川弘文館）

選択集Ⅱ　（水曜日　１講時）　南　宏信

授業のテーマ

『選択集』第7章から第16章を読む。

授業の概要

・法然上人の主著『選択本願念仏集』の『観経』・『小経』撮要である第7章から第16章を講説する。

・分担して漢文を音読していく。

・小テストをして重要事項の確認を行う。

授業の目的・ねらい

『選択集』は宗祖法然の根本聖典であることを確認していく。

①『選択集』では阿弥陀仏の念仏往生の本願を根本として、称名念仏が阿弥陀仏・釈迦・六方の諸仏によって「選択」（八種選択義）されていること。

②すべての往生行のうち阿弥陀仏の本願の行である称名念仏こそが他の修行よりもはるかに勝れているとされていること。

③浄土宗の教えが「浄土三部経」の善導大師による解釈に基づいていること。

『選択集』では善導大師が阿弥陀仏の化身であるとされていること。

毎回の授業テーマ・内容

・第1章から第6章までの復習。

『選択集』全体の構成の確認。

・【第7章】光明唯摂念仏行者篇

（阿弥陀仏の救いの光は念仏者を選んで照らすこと）

・【第8章】①「三心篇」　（念仏者は必ず三心を具えよ）

至誠心（真実心）

・【第8章】②「三心篇」

深心（わが身の実態と、阿弥陀仏の救済を深く信じる心）

・【第8章】③「三心篇」

廻向発願心（あらゆる善行を極楽往生のために廻向して往生を願う心）

・【第9章】「四修篇」

（念仏者は恭敬修、無余修、無間修、長時修を用いるべきこと）

・【第10章】化仏讃歎篇

（阿弥陀仏の分身が念仏を選んで讃歎されること）

・【第11章】「約対雑善讃歎念仏篇」

（阿弥陀仏が念仏する人を選んで讃歎されること）

・【第12章】①「付属仏名篇」

（釈尊が観無量寿経の末尾で念仏を選んで弟子阿難に付与されたこと）−前半

・【第12章】②「付属仏名阿難章」−後半

・【第13章】「念仏多善根篇」

（念仏は諸行と比較できないほど価値が高いこと）

・【第14章】「六方諸仏唯証誠念仏篇」

（六方の諸仏が念仏の教えを選んでその正しさを証言されること）

・【第15章】「六方諸仏護念章」

（六方の諸仏が念仏者を選んで保護されること）

・【第16章】①「以弥陀名号付属舎利弗章」

（釈尊が念仏を舎利弗に付与されたこと）

・【第16章】②偏依善導一師

（「善導は阿弥陀仏の化身である」）−全体のまとめ

到達目標

授業のねらいで挙げた諸点を理解すること

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

①資料をあらかじめ読んでおくこと。

②『選択集』を普段から繰返し音読すること。

受講に当たっての留意事項

・各自ノートをまとめておくこと。

・積極的な態度で受講することを望む。

成績評価の基準

定期試験（教室）　70%

授業内発表　30%

テキストについて

『浄土宗聖典版　選択本願念仏集』　浄土宗聖典刊行委員会 編集　（浄土宗）　1,100円

参考文献について

『選択本願念仏集』　（訳）石上善應　（ちくま学芸文庫）

『法然上人のお言葉−元祖大師御法語−』　知恩院浄土宗学研究所編集委員会　（総本山知恩院布教師会）

『傍訳選択本願念仏集』　高橋弘次・善裕昭・本庄良文　（四季社）

『選択集全講』　石井教道　（平楽寺書店）

『選択集講座』　藤堂恭俊　（浄土宗出版）

伝法概説　（水曜日　２講時）　稲　岡　誓　純

授業のテーマ

三巻書講読

授業の概要

浄土宗の伝書である法然上人作と云われる『往生記』、二祖弁阿聖光上人作の『末代念仏授手印』、三祖然阿良忠上人作の『領解末代念仏授手印鈔』の三巻書を講読していく。

授業の目的・ねらい

浄土宗の伝法の歴史を知り、さらに三巻書を講読することによって、浄土宗の教えを正しく受け止めることを目的とする。

毎回の授業テーマ・内容

①浄土宗の伝法の由来と歴史

②三巻書の講読

・法然上人作とされる『往生記』の講読と理解

（難遂往生機、種々念仏往生機、一紙小消息）

・二祖弁阿聖光上人作の『末代念仏授手印』の講読と理解

（四句の偈、末代念仏授手印の序、五種正行、正助二行、三心、五念門、四修、三種行儀、手次状、裏書）

・三祖然阿良忠上人作の『領解末代念仏授手印鈔』の講読と理解

到達目標

到達目標は、①浄土宗における伝法の由来と歴史を正しく理解すること。②三巻書を講読することによって浄土宗の教えを正しく受け取ること。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

浄土宗の僧侶をめざす者にとって大編重要な講義であるので、事前にてきすとの該当箇所をよく読んでから受講し、講義が終わればノートの整理を行うこと。

受講に当たっての留意事項

ノートをしっかりとること。

成績評価の基準

定期試験（教室）	70%	到達目標に示した項目の到達度によって評価する。
その他	30%	道場生活の中での講義であるから、受講態度をも評価の対象とする。

テキストについて

『三巻書・授菩薩戒儀』　浄土宗聖典編纂委員会　（浄土宗）　1,100円

宗教概説　（水曜日 ３講時）　竹　内　真　道

授業のテーマ

宗教とはなにか

授業の概要

前期で宗教学について概説し、後期で世界の主な宗教について説明する。

授業の目的・ねらい

宗教について考える。

毎回の授業テーマ・内容

宗教の構造、宗教心の形成、世界の宗教、これからの宗教

到達目標

宗教の構造が理解できる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

復習して疑問点を明らかにしておく。

受講にあたっての留意事項

理解できないことはなんでも質問するように。

成績評価の基準

定期試験（教室）	70%	要点をよくまとめ、勝手な解釈はしないこと。
定期試験（課題）	10%	授業内容からまとめること。
授業内発表	8%	疑問点を明らかにすること。
授業内試験	4%	
授業内課題	4%	わからないことを書いて提出。
その他	4%	宗教に関してのいろいろな質問を望む。

テキスト

テキストは必ず用意すること。廃刊になっていたときは、こちらでコピーしたものを渡す。

『宗教学』小口偉一（弘文堂）　1,430 円

『一冊でわかる イラストでわかる　図解 宗教史』成美堂出版部編（成美堂出版）　1,320 円

宗教法制 （水曜日 ４講時）　野　田　雅　史

授業のテーマ

憲法、宗教法人法、墓地、埋葬等に関する法律、税法等の広い分野に跨る宗教法制を対象とする。

授業の概要

配付する資料とテキストを使用しながら憲法、法律、判例等について説明をする。

授業内試験を行うこともある。

授業の目的・ねらい

宗教法制は、憲法、宗教法人法、墓地、埋葬等に関する法律、税法等の広い分野に跨っている。

受講者がこれらを理解することを目的とする。

毎回の授業のテーマ・内容

・宗教法人法の基本理念と憲法

・信教の自由に関する判例について

・政教分離に関する判例について

・宗教法人の設立

・宗教法人の規則

・宗教法人の機関

・宗教法人の機関に関する判例

・宗教法人の財務

・宗教法人の事業

・宗教法人の税務

・宗教法人と信者

・包括宗教法人と被包括宗教法人

・宗教法人の合併と解散

・所轄庁の権限と宗教法人審議会

・墓地、埋葬等に関する法律について

・墓地、納骨堂の経営

到達目標

授業内容を理解し、記憶すること

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

テキスト等を読むなどして、予習すること。

復習をしっかりして、理解を深め、記憶すること。

成績評価の基準

定期試験（教室）	60%	
授業内試験	20%	
その他	20%	受講態度

テキストについて

『浄土宗宗教法制関係法令資料集〔第二版〕』（浄土宗）　1,980円

参考文献について

『宗教法人ハンドブック〔十訂版〕設立・会計・税務のすべて』　（税務経理協会）　1,760円

円頓戒概説　（木曜日　１講時）　　齊　藤　隆　信

授業のテーマ

円頓戒を学ぶ

授業の概要

浄土宗が相伝している円頓戒の歴史と思想を学びます。

授業の目的・ねらい

円頓戒の歴史とその教えを明確に説明できることを目的とします。

毎回の授業テーマ・内容

１学期

・戒律概説

・円頓戒の歴史

・円頓戒の思想（三聚浄戒）

・円頓戒の思想（梵網戒）

２学期

・最澄の功績

・法然の授戒と持戒

・聖冏の伝戒論

・十二門戒儀

３学期

・念仏と円頓戒

・円頓戒の実践方法

・円頓戒の現代的意義

・復習

到達目標

円頓戒の理念と実践を説明することができる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

講義で学んだことを、どのように日常生活の中に活用できるのかを常に考えること。

成績評価の基準

定期試験（教室）　60％

授業内発表　40％

テキストについて

『円頓戒講説』　齊藤隆信　（齊藤隆信研究室　大学内大垣書店）

『三巻書・授菩薩戒儀』　浄土宗聖典刊行委員会　（浄土宗）　1,080円

仏教学概論Ⅱ　（木曜日　２講時）　　中御門　敬　教

授業のテーマ

大乗仏教の基本的な知識を修める。

授業の概要

大乗仏教の思想と歴史について学ぶ。

授業の目的・ねらい

浄土宗僧侶となる者にとって必要な学問は宗乗と余乗である。仏教学概論は後者に含まれる。インド仏教を基本とする伝統的な教義を学ぶことによって、宗乗の学びの基礎力を身につけることを、本授業の目的とする。

毎回の授業テーマ・内容

1. 大乗仏教の特質
   - ・大乗の成立とその意味
   - ・その特質
2. 菩薩の思想
   - ・歴史的経緯
   - ・菩薩観の展開
   - ・大乗菩薩の理想
   - ・浄土宗に見る菩薩の精神
   - ・自利即利他の起源
3. 六波羅蜜
   - ・六波羅蜜の意義内容
4. 大乗仏教の二大思潮
   - ・中観派
   - ・唯識派
5. 地獄と極楽

到達目標

学んだことを、法話などに活用できるようになる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

授業が終わった後に、ノートをチェックして、疑問点を整理しておくこと。そして、その疑問点を次の授業中に質問すること。

成績評価の基準

授業内試験　　70％

授業内発表　　30％

テキストについて

『新訂仏教学概論』　教科書改訂検討委員会編（執筆者：真田康道、吹田隆道、平岡聡、南清隆）

（浄土宗）　1,100円

参考文献について

授業中に当方より配布する。

詠唱Ⅱ　（木曜日　３・４講時）　　眞　泉　善　章

授業のテーマ

浄土宗吉水流詠唱

授業の概要

念仏の「助業」としての「吉水流詠唱」の意味・内容を講義し、法具を用いた実践を通じて、それを体得する。なるべく多くの「御詠歌」と「和讃」を唱えることができるようにしてもらう。浄土宗僧侶として、将来の教化実践の場面で、「詠唱」を通じて「声」と「言葉」の持つ力を発揮して、教化の実をあげることができるように指導する。

授業の目的・ねらい

①念仏の「助業」としての「吉水流詠唱」の意義・内容を会得する。

②法具を用いた実践を通じて、「吉水流詠唱」を体得する。

③学外授業での「詠唱奉納」を通じて、「吉水流詠唱」を感得する。

④上級詠唱講司の資格を取得することを通じて、「吉水流詠唱」を味得する。

毎回の授業テーマ・内容

第1回：吉水流詠唱の定義の復習と確認

第2回：吉水流詠唱の意義の復習と確認

第3回：吉水流詠唱の内容の復習と確認

第4回：吉水流詠唱の歴史の復習と確認

第5回：吉水流詠唱の法具の作法の復習と習熟

第6回：吉水流詠唱の威儀作法の復習と習熟

第7回：吉水流詠唱の御詠歌について①

第8回：吉水流詠唱の御詠歌について②

第9回：吉水流詠唱の御詠歌について③

第10回：吉水流詠唱の和讃について①

第11回：吉水流詠唱の和讃について②

第12回：吉水流詠唱の和讃について③

第13回：吉水流詠唱の活用・応用について

第14回：吉水流詠唱の実践(授業内試験・筆記試験)

第15回：吉水流詠唱の実践(授業内試験・実技試験)

到達目標

①法具(鈴・鉦)を用いて、なるべく多くの御詠歌・和讃を唱えることができる。

②多くの御詠歌・和讃の内容を説明することができる。

③上級詠唱講司の資格を取得する。

授業時間外の学習(予習・復習)についての具体的な指示

①法具を用いた御詠歌・和讃のお唱えを習熟するために、日常的に反復練習をすること。

②御詠歌・和讃の内容・意味の会得は、お唱えのために必須であるので、テキストや参考文献の該当部分をよく復習して理解すること。

受講に当たっての留意事項

詠唱の技術を習得することのみが目的ではなく、吉水流詠唱の実践を通じて、浄土宗義・法然思想を体得することを最終目的として、自主的な取り組みを期待します。授業期日と日程が合う場合には、学外研修として吉水流詠唱奉納大会等に参加して、詠唱奉納を体験してもらう。

成績評価の基準

授業内発表	30%	法具を用いて、御詠歌・和讃を唱えてもらう。作法・音程・熟練度などを確認して評価する。
授業内試験	40%	法具を用いて、御詠歌・和讃を唱えてもらう。決められた作法・音程・達成度などを評価する。
授業内課題	30%	吉水流詠唱の御詠歌・和讃の内容・意味を自分の言葉で説明してもらい、その内容を評価する。

テキストについて

詠唱Ⅰに継続してテキスト・法具類を準備すること。また、必要に応じて参考資料を配付する。

『吉水流詠歌集　音符用』　松濤基道　編集　(浄土宗)　1,000円

『吉水流和讃集　音符用』　松濤基道　編集　(浄土宗)　1,000円

『浄土宗詠唱マニュアル』　松濤基道　編集　(浄土宗)　1,500円

『浄土宗吉水流和讃解説書』　松濤基道　編集　(浄土宗)　1,000円

参考文献について

授業中に、必要に応じて指示する。

『法然さま 二十三のお歌』　伊藤真宏　(浄土宗出版)　462円

『吉水流詠讃歌集CD(3枚組)』　松濤基道 編集　(浄土宗吉水講)　6,000円

『はすうた―極楽浄土巡礼歌―』　伊藤真宏　(浄土宗鳥取教区・教化団)

『近代仏教教団とご詠歌』　新堀歓乃　(勉誠出版)

浄土教史概説Ⅱ　(木曜日　5講時)　松　永　知　海

授業のテーマ

浄土宗の形成と展開

授業の概要

法然上人が浄土宗を開宗された経緯とその展開を、浄土宗典籍から概説する。

授業の目的・ねらい

浄土宗の教えは、三経一論五部九巻二集といわれる典籍を中心に解釈されてきた。そうした典籍や末書の書写・刊行を通して浄土宗の形成と展開とを理解できることがねらいである。

毎回の授業テーマ・内容

①浄土宗開宗の意趣と選択集②二祖三代の著述③三巻七書の編纂④近世の著述と刊行⑤浄土宗全書・続浄土宗全書の刊行の５点を柱に、テキストを解説していく。

到達目標

浄土宗典籍の名称と著者名とを正しく書けること。つぎに、その著作の意図を理解すること。さらに、浄土宗の修学についての展開を記述できること

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

書名について、『浄土宗大辞典』・『新纂浄土宗大辞典』等で確認し、併せて『浄土宗全書』正続でも確認しておくこと。

受講に当たっての留意事項

テキストは受講前に通読しておくこと。

成績評価の基準

定期試験（教室）　80%

授業内試験　20%

テキストについて

『浄土宗史』　成田俊治他　（浄土宗）　418円

仏典概説Ⅱ　（金曜日　１講時）　加　藤　弘　孝

授業のテーマ

日常勤行式の解説

授業の概要

浄土宗の日常勤行式の解説

授業の目的・ねらい

浄土宗の日常勤行式の各偈文（香偈、三宝礼、四奉請など）の出典、およびその内容を解説する。平常、読誦する日常勤行式の各偈文は、様々な仏典より抽出されたものである。その偈文の出典を探り、内容を解説していく。なお「一枚起請文」などのご法語も解説する。

毎回の授業テーマ・内容

・浄土宗の日常勤行式

・浄土宗の日常勤行式

・香偈

・三宝礼

・四奉請、三奉請

・懺悔偈

・開経偈

・誦経

・諸回向偈

・摂益文

・総回向偈

・総願偈

・三身礼、送仏偈

・一枚起請文

・一紙小消息

到達目標

日常勤行式の各偈文の意義を理解するのと同時に全体の構成を把握できるようにする。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

日常勤行式の各偈文の意味、内容を意識して、平素より読誦すること。

各偈文の音読、訓読を平素から反復しておくこと。

適宜、配布するプリントを復習に用いること。

受講にあたっての留意事項

あらかじめテキストを通読しておくこと。

成績評価の基準

定期試験（教室）	50％
授業内発表	20％
その他	30％（感想記述　10％　受講態度　20％）

テキストについて

適宜、プリントを配付する。

『浄土宗日常勤行の話』　香月乗光　（浄土宗出版室）　990円

同和教育　（金曜日 3講時）　八　橋　秀　法

授業のテーマ

浄土宗教師に求められる、人権に対する意識を高める。

授業の概要

日本固有の人権問題である部落差別問題をはじめとする様々な差別や人権問題について、法然上人の万人平等救済の思想を踏まえつつ、共に学び、共に考えていく。

授業の目的・ねらい

部落問題に対する正しい理解と認識を持ち、様々な人権問題について考え行動できる感性を磨く。

毎回の授業テーマ・内容

・人権の定義、人権感覚

・部落差別の歴史

・差別事象

・差別問題に対する取り組み

・佛教の平等思想

・法然上人の万人平等救済思想

・現代社会に存在する様々な人権問題

・佛教と人権

到達目標

様々な人権問題に対して、浄土宗教師として、主体的に関わることができる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

講義を聴くだけでなく、自分でもしっかりと考えること。

日々、様々な形で報道される差別や人権に関わる問題に対しても、意識を向けるように努める。

成績評価の基準

定期試験（教室）	60%
授業内発表	20%
授業内課題	20%

テキストについて

浄土宗人権教育シリーズⅠ『平等へのめざめ』　浄土宗編　（浄土宗）　1,320円

参考文献について

適宜、資料を配付する。

浄土宗人権教育シリーズ5 『業を見すえて』　浄土宗編　（浄土宗）

実践仏教学４（金曜日 ４講時）　八　橋　秀　法

授業のテーマ

浄土宗における各種法要の解説。

授業の概要

浄土宗における各種法要について、由来・儀礼の意味について解説する。

授業の目的・ねらい

日常勤行式という基本を踏まえた上で、浄土宗が伝承している各種法要を理解する。

毎回の授業テーマ・内容

仏教実践の一手段である各種法要について講義を行う。

・年中行事

・盂蘭盆会

・施餓鬼会、など

到達目標

各種法要とその中で勤める儀礼の意義について理解する。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

積極的に学び知ろうとする意欲を持つこと。

成績評価の基準

定期試験（教室）　60%

授業内発表　20%

授業内課題　20%

テキストについて

『浄土勤行法』　（佛教大学）　2,500円

『浄土宗法要集上・下』　浄土宗総合研究所　（浄土宗）　各3,300円

『法然上人のお言葉 ： 元祖大師御法語』　知恩院浄土宗学研究所編集委員会編訳　（総本山知恩院布教師会）

参考文献について

適宜、資料を配付する。

実践仏教学５　（金曜日　５講時）　八　橋　秀　法

授業のテーマ

浄土宗の各種法要の実習。

授業の概要

浄土宗寺院で勤められる各種法要の実習を行う。

授業の目的・ねらい

日常勤行式の基本を活用して、浄土宗伝承の各種法要、威儀、音声等を習得する。

毎回の授業テーマ・内容

実践仏教学４で解説した各種法要について、構成や偈文をより詳しく理解した上で実習を行う。

到達目標

各種法要を端正に執行することが出来る。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

「道場」という場を大切にし、日々の生活の中で習い覚えること。

成績評価の基準

定期試験（教室）　60%

授業内発表　20%

授業内課題　20%

テキストについて

『浄土宗勤行法』　（佛教大学）　2,500円

『浄土宗法要集　上・下』　浄土宗総合研究所編　（浄土宗）　各3,300円

『縁の手帖』　浄土宗総合研究所編　（浄土宗）　187円

参考文献について

適宜、資料を配付する。

法務実習Ⅱ　（土曜日）　南　忠信

授業の概要

宗祖の恩を知る。

授業の目的・ねらい

知恩院は法然上人の御遺跡、専修念仏発祥の聖地である。法然上人の御影のお側での法務実習を通して宗祖への畏敬の念を培う。又「信は荘厳より起る」と言われるが先ず清掃より始まる。諸堂での作務は自行即化他行であることを学習する。

授業テーマ・内容

１、日中法要での勤行、念仏、伴僧、諸堂での作務、志納所での寺務などを実践することにより僧として必要な法務、実務の習得を目ざす。

２、御忌大会において浄土宗最大規模の法要を体験することにより、浄土宗の法要形態を学ぶ。

３、彼岸会法要では、長時間の正座に耐えられるよう普段より鍛練しておくこと。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

自から主体的に学び摂ろうとする積極性を求める。

常に参詣者の目に触れる為、礼儀作法に留意し真摯な態度で実習に臨むこと。

成績評価の基準

その他　　実習態度、出席率を重視する。

※ テキスト・参考文献の価格は変更となる場合があります。